参考資料３

令和元年度地域懇談会における主な意見（概要）

１　地域懇談会の目的

福島県総合計画「ふくしま新生プラン」及び福島県復興計画の推進に向け、各地域で多様な立場の県民の方々から意見を伺い、その意見を地域別の主要施策をはじめ、政策分野別の主要施策、重点プロジェクト等の進行に活用する。

２　懇談テーマ

（１）テーマ１（地域の課題）：地域の課題や必要な施策・取組の方向性など

（２）テーマ２（県全体の課題）：地方創生・人口減少対策に関する課題や取組、方向性について

３　開催日及び出席者等

地域名	開催日・会場・意見発表者（敬称略）
(1) 県北地域	**〔開催日〕令和元年7月17日（水）** **〔会　場〕県庁北庁舎 4階 災害対策県北地方本部室** **〔主　催〕県北地方振興局** **〔意見発表者〕** ・齋藤　恵里子（恵労働衛生コンサルタント事務所） ・樋口　高志（暮らし茶屋風知草 店主） ・國分　久徳（一般社団法人もとみや青年会議所 直前理事長） ・大槻　栄之（JAふくしま未来伊達地区モモ生産部会 副部会長） ・渡辺　あゆ美（株式会社福島キャリアナビ 専務取締役） ・亀岡　さとみ（一般財団法人障がい者福祉支援研究所 代表理事）
(2)県中地域	**〔開催日〕令和元年7月11日（木）** **〔会　場〕郡山合同庁舎 本庁舎3階 第一会議室** **〔主　催〕県中地方振興局** **〔意見発表者〕** ・大和田　卓（株式会社こぷろ須賀川 企画事業部 サブマネージャー） ・小澤　啓子（農業法人おざわふぁ～む株式会社 取締役） ・久保田　健一（一般社団法人Switch 代表理事、株式会社Shift 代表取締役） ・二瓶　一嘉（株式会社二嘉組 取締役副社長、福島県建設業協会青年部） ・芳賀　育実（天栄村移住コーディネーター） ・渡辺　由紀（公益財団法人星総合病院法人 こども事業部事務局長）
(3)県南地域	**〔開催日〕令和元年7月8日（月）** **〔会　場〕白河合同庁舎　別棟大会議室** **〔主　催〕県南地方振興局** **〔意見発表者〕** ・大椙　広（叶や豆冨 有限会社大椙食品 代表取締役） ・小泉　美峰（矢祭町役場事業課地域林政アドバイザー） ・近藤　均（株式会社フジ機工 代表取締役社長） ・清水　大翼（ファームつばさ 代表） ・滝田　国男（表郷いいもの開発協議会 会長） ・山本　光子（一般社団法人あんだんて 事務局長）

地域名	開催日・会場・意見発表者（敬称略）
(4)会津地域	〔開催日〕令和元年7月8日（月） 〔会　場〕会津若松合同庁舎 新館2階 大会議室 〔主　催〕会津地方振興局 〔意見発表者〕 ・高橋　梢（合同会社設計まちづくりテント 代表） ・阿部　進（会津産業ネットワークフォーラム 代表） ・山際　博美（株式会社山際食彩工房 代表取締役） ・金親　丈史（一般社団法人ＩＯＲＩ倶楽部 事務局長） ・佐々木　祐子（ゲストハウスひととき　地域おこし協力隊ＯＧ） ・山口　巴（特定非営利活動法人Lotus 理事長）
(5)南会津地域	〔開催日〕令和元年7月11日（木） 〔会　場〕南会津合同庁舎 2階 会議室 〔主　催〕南会津地方振興局 〔意見発表者〕 ・浅沼　秀俊（福島県建設業協会田島支部） ・大橋　史（只見町公営塾心志塾） ・金子　政彦（株式会社金子牧場） ・斎藤　幹子（只見農産加工企業組合げんき村） ・関根　健裕（関根木材工業株式会社） ・馬場　康徳（特定非営利活動法人あたご）
(6)相双地域	〔開催日〕令和元年7月12日（金） 〔会　場〕南相馬合同庁舎 401会議室 〔主　催〕相双地方振興局 〔意見発表者〕 ・伊藤　佳枝（しんちの子育て考え隊　代表） ・管野　貴拓（相馬市松川浦観光振興グループ事務局長） ・一関　宙（Next Commons Lab（ﾈｸｽﾄ ｺﾓﾝｽ ﾞﾗﾎﾞ）南相馬ﾁｰﾌｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ） ・髙田　吉弘（一般社団法人おおくままちづくり公社 事務局長） ・関　孝男（株式会社あぶくま川内（いわなの郷）社員） ・古谷　かおり（木戸の小料理 結のはじまり 代表）
(7)いわき地域	〔開催日〕令和元年7月5日（金） 〔会　場〕いわき合同庁舎 4階 大会議室 〔主　催〕いわき地方振興局 〔意見発表者〕 ・芳賀　正道（いわき農業青年クラブ連絡協議会 副会長） ・佐藤　フロンズ（いわき商工会議所青年部 前会長） ・鍛冶　真由美（一般社団法人福島県精神保健福祉協会　ふくしま心のケアセンターいわき方部センター専門員） ・小沼　郁亙（小名浜まちづくり市民会議 会長） ・高梨　幸司（特定非営利活動法人みんぷく スーパーバイザー） ・鈴木　三則（いわき市漁業協同組合 副組合長理事兼四倉支所長）

【主な意見】懇談テーマ2：地方創生・人口減少対策に関する課題や取組、方向性など

分野	No	意見等	地域
1　地方創生・人口減少対策全般			
	1	新しいものを持ってくるのも重要だが、地域にあるものを生かし、新しいものを作り上げることも大事。	県南
	2	186万人の人口が2040年には2割減となる。人がすべきこと、機械でできることを整理して取り組んでいくべき。	県南
	3	過疎地域こそ、新しいことに取り組めるのではないか。世界を見れば少人数でも豊かな国は沢山あり、人口密度では計れない。	会津
	4	行政がやるべきこと、民間ができること、それぞれある。もっと民間を活用してもらいたい。また、地道に活動している個人、団体への支援をお願いしたい。	会津
	5	これまでの対症療法的な対策だけでは解決が難しい。人口が減っていく中、どうしていくか。発想の転換が必要。	南会津
	6	地方創生とは単に人口を増やせば良いというものではない。誰でもいいから住んで人口が増えれば良いというものではない。	相馬
	7	単に人口が増えるのではなく、地域に愛着を持った人が増えることを希望する。	相双
	8	根本的な問いとして、人口減少がいけないことなのか疑問。右肩上がりの経済成長の時代とは違う。	相双
	9	「なぜ、人口減少が問題なのか」という問いに答えていく必要がある。行政から見た人口減少、企業から見た人口減少、地域住民から見た人口減少など、それぞれの立場から考えるべき問題。	相双
	10	人口減少については、どのような減り方をしているのか、どのような問題意識を持っているのか整理していくことが大事。	いわき
	11	人口がどの位あれば良いのか考える必要がある。人口減少は大きな課題だが、日本でもバランスの取れた人口減少対策が展開されるべき。	いわき
	12	所属団体の中で、人口減少や高齢化という言葉自体がずれているという意見があった。「若者減少化」が問題。若者の人口に特化した調査をしようと思っている。この地域で生まれた人が30歳頃、どの程度残っているかなどの検証も大事だと思う。	いわき

分野	No	意見等	地域
2 しごとづくり			
（1）雇用の場・起業	13	生業に自信をなくしている方が沢山いる。こうした方々が積極的に前に出て行けるよう取り組むべき。	県北
	14	行政や学校は、子どもの地元への愛情を醸成し、地元に戻ってきてほしいと言うが、実際には働く場が少ない。保護者は地元に戻って就職してほしいと言えない状況。	南会津
	15	しごとづくりは、この地域に予算を持ってくるかではなく、新しい仕事をどうやって作っていくかが重要。	南会津
	16	働ける場は職種によってはまだ沢山ある。例えばIT関係では、光通信回線さえあれば仕事が出来ると聞く。うまくPRしていく必要がある。	南会津
	17	大企業には地域に入っていきたいというニーズがある。うまくマッチング出来ていないと感じる。	相双
	18	企業のPRではなく、働きがいがあるかどうかが大切。併せて、地域で自立していく人たちへの応援、コーディネーターへの支援が必要。	相双
	19	一時的に進学や就職で市外、県外に行くのは仕方がない。最終的に地域に戻ってきて30歳人口が減らないことが大事。そのためには仕事が必要であり、就職支援策の検討が必要。	いわき
（2）雇用	20	従業員の雇用を守ることを大事にしている。一人でもリストラすれば技術を継承できない。	県南
	21	新入社員の離職率が高く、困っている。	県南
	22	障がい者の就労を支援するジョブコーチが少ない。養成が必要。	県中
	23	通所型施設を運営しているが、最終目標は一般就業。採用に際し、障がい者枠を設けてほしい。	南会津
	24	外国人の就労について、建設業では草刈りなどの比較的簡易な作業でも資格が必要であり、難しい面がある。	南会津
（3）産業	25	若者が農業で稼ぐことができ、生活も充実していることを小中学生に見せることができれば、農業も選択肢の一つになる。地域に残ってくれる可能性が広がる。	県南
①農林水産業	26	農業者が年々高齢化し、担い手が少なくなっている。手遅れにならないよう、新しい農業の形をつくる必要がある。	県南
（農業）	27	就農にはお金がかかる。農業を辞めた方の農業機械を空き家バンクのように把握しておき、市町村間で情報共有し、必要な時に借りられるような仕組みがあると良い。また、機械の整備の仕方を、農業を辞めた方に教えてもらえると良い。	県南
	28	無報酬で農業研修を受け入れているが、指導するにはそれなりの費用がかかる。受入体制整備への支援が必要。	県南
	29	小規模生産者は生産も配送も一人でやらざるを得ない。他の生産者と一緒に配送する、運送会社や個人商店と連携して配送するなどの仕組みがあると良い。	県南
	30	食から地域の魅力を発信するため、地産地消や6次化などに取り組んでいるが、まずは、農業を儲かる農業にしていく必要がある。	会津

分野		No	意見等	地域
		31	農業者の高齢化が進んでおり、農作物は作れるが、運べないことがある。対応する流通システムが必要。	会津
		32	学校給食は地産地消が30%まで来ているが、福祉・病院食では3%。福祉施設等での利用が広がれば、お金が地域で回り、就農者も増えるのではないか。	会津
		33	中山間地域であっても農業に興味を持ってくれる人は多くいる。豊かな自然とともに農業を上手にPRしていくことが大切。	南会津
		34	それぞれの農作物にあった政策（補助メニューなど）があれば、新規就農の良いきっかけになるのではないか。	南会津
		35	人口減少に伴い、耕作放棄地が増えている。歯止めをかけるのは難しい。	南会津
		36	就農のニーズはあっても、まちづくり公社が農地を提供することができない。特区などの制度を調べてみたが難しいことが分かった。もっと自由にできたら良いのにと思う。	相双
		37	ふれあい野菜教室等を通じて、農業の魅力を伝えることが大事。数字だけではなく、食の安全安心を体感してもらうことが大切。	いわき
	（林業）	38	森は生きており、人の手が入ることで活かされる。民間が入っていないエリアは行政によるてこ入れが必要。	県南
		39	大手の木材業者の価格攻勢に対抗することは難しい。地域の事業者が連携して取り組む必要がある。	南会津
		40	地元産の木材を使ってもらうための取組が必要。木材の地産地消のほか海外も視野に入れ、展示会などに参加し、広く周知する活動を行っている。	南会津
		41	バイオマスはたとえ小さな活動でも、大きなビジネスになる可能性がある。	南会津
	（水産業）	42	漁業の後継者が少ないが、権利関係があり新規参入が難しい。漁場を育てるため行政の支援がほしい。	相双
		43	漁業は試験操業中であり、魚を観光資源として生業にしていくにはまだまだ条件が整っていない。	相双
		44	漁業が魅力ある産業となり、若い漁業者が定着できるよう、資源管理型漁業を徹底するとともに、朝市や地元料理教室などを通し、地域の方々との交流を深めていきたい。	いわき
		45	試験操業は年々拡大しているが、水揚量は震災前の15%に留まっている。水揚量の増加に取り組むとともに、県内外でのPR活動など、風評払拭への取組が必要。	いわき
	②建設業	46	就業人口が減り、特にベテランの技術者が減ってきていることが大きな課題。仕事はあっても受注できないことがある。	南会津
		47	業界では就業人口が減っている。今後、地域のインフラを守っていけるのか。協同組合方式で除雪などの維持管理を行う「包括的維持管理」が今後必要になるだろう。	南会津
	③製造業	48	生産性向上が重要課題。Industrial4.0（オートメーション化、デジタル化、コンピュータ化等）やSociety5.0（IoT、AIをはじめとする超スマート社会）など、新たな時代の流れを取り入れていく必要がある。	会津
		49	地域の製造業では人材不足が急速に進んでいる。大企業は若手人材も潤沢だが、中小企業では人材確保は大きな課題。	会津

分野		No	意見等	地域
	④小売業・ サービス業	50	観光客を受け入れる宿泊施設が少なく、断ることが多々ある。一方で、新規参入の壁が高く、民宿などの開業は難しい。	南会津
		51	空き店舗が出て、代わりに起業しないかと聞いても手を挙げる人がいない。手を挙げる人を育てる意味で、小学生へのビジネスや起業についての学びの機会を設けている。	いわき
	⑤医療・福祉	52	看護師などの資格取得や大学院等への進学の際、一定期間、地元の医療機関で働けば返済しなくても良い助成金制度があれば、県内、県外から人材が集まるのではないか。	いわき
	⑥新産業	53	航空宇宙関連部品のサプライチェーンが県内にあると良い。	県南
		54	AictによりIT産業の受け皿ができ、海外企業とつながることも可能となってきている。コネクテッド・インダストリーズ（データを介して、人、モノ、技術、機会などが企業、産業、世代を越えてつながること）が大切。	会津
		55	知識、技術には風評の問題は出ない。イノベーションコースト構想で生み出したものを浜通りから強力に発信していくことが大切。	相双
	⑦ものづくり	56	山形県では、ものづくりインストラクター育成プログラムを行っている。本県も、ものづくり人材育成にもっと力を入れてほしい。	会津
	⑧交流	57	異業種交流の場づくりが必要。	県南
		58	異業種で頑張っている人と連携すれば、可能性は大きく広がる。農業は様々な分野で活躍できるのではないか。	南会津
	（4）情報発信	59	地域性を出して売り出すため、名称に必ず「南会津」と付けたり、SNSで発信する際、「南会津」のハッシュタグを付けている。	南会津

分野	No	意見等	地域
3　ひとの流れづくり			
（1）定住・二地域居住 ①定住等促進	60	移住希望者に対して「福島には本物の暮らしがある」と伝えたい。移住希望者の気持ちが分かる優れた感覚、引き出しを持った移住相談員が必要。自分の経験から、ファーストタッチが何より大切。	県北
	61	果物収穫などの体験型ツアー等を通じて地域間交流や定住・二地域居住の推進に取り組んできた。その中で、自分たちが地元の良さを知らないこと、本当はポテンシャルが高いことを実感した。	県北
	62	県や各地域で良い取組をしているが、外への発信力が弱い。かなりのフォロワー数を持っている方もおり、そうした方や同窓会組織などと連携し、魅力ある取組をもっと外に発信してほしい。	県北
	63	長野県東御市では、生活観光として、本物の生活をそのまま見てもらう取組を行っている。ぜひ福島でもやってほしい。例えば、外国人が2週間の休みを過ごす受け皿として、本物の生活を提供してはどうか。	県北
	64	「来て欲しい」ではなく、「行って見たい」と思わせるようなインパクトが必要。	県中
	65	移住フェアに来た人を取り合うのではなく、希望に合う市町村を紹介できるよう情報共有の仕組みが出来ると良い。	県中
	66	子育て環境が整い、教育水準が高ければ、田舎でも移住希望者は多い。例えばレベルの高いプログラミング教育など、エッジを効かせた取組が必要。	県中
	67	移住された方の声を聞くと、教育と医療の充実が決め手のようである。	県中
	68	田舎に来て何かやりたいという若い方は、そこにいる人に魅力を感じている。取組をビジュアル化すれば、共感する若者が増えるのではないか。	県南
	69	就農希望者が増えている。インターネットを活用して就農のしやすさ、立地の良さをもっとアピールするべき。	県南
	70	定住・二地域居住について、どの県も市町村も同じような施策を展開しており、決め手がない。夏休みの1週間や1か月など短期で自由に過ごせるプログラムを提供してはどうか。	会津
	71	今は多拠点で活動する人も増えている。他県ではやっていない、多拠点をターゲットとして事業を展開してはどうか。	会津
	72	移住者でも地域の行事（運動会、人足、祭りなど）に参加し、楽しいと感じている。その楽しさをSNSで発信している。	会津
	73	地域おこし協力隊員を経て、空き家をリノベーションして起業した。地域によって移住者を受け入れるマインドにばらつきがあると感じる。今、暮らしている地域は、若い人が移住しやすい環境が整っている。	会津
	74	実際に移り住む集落とのマッチングが重要。地域の特性をきちんと伝えるコーディネーターが必要。	会津
	75	移住者の受入れ側にもメリットがあること（家賃収入、新しい風（移住者）により地域が活性化するなど）を伝えることが必要。移住者を受け入れている人の体験談を伝える機会があると良い。	会津
	76	地域おこし協力隊の任期3年は短い。生活する、生業を見つける、起業することまで決められなければ定住には繋がらない。任期満了後の協力隊員の活用について、しっかり考える必要がある。	会津
	77	CCRC（生涯活躍のまち）の取組について、大規模ではなく集落単位（10～20人程度）で出来ないか検討を進めている。	会津

分野		No	意見等	地域
		78	地元出身の若者が確実に戻ってくる状況にない。地域の強みをしっかり把握し、外から人を呼び込むことが大切。	南会津
		79	都会に比べ匿名性が低い。また、都会との違いを口にすると「田舎はこんなものだから」と一蹴されることもある。若い人が移住するには課題も多い。	南会津
		80	都会に比べて人間関係が密であることを息苦しく感じ、せっかく来てくれた人が去ってしまうことが残念。地域の側でも意識を変えていくことが大切。	南会津
		81	移住者の受入にあたり、地域住民の意識を変えるのは易しいことではないが、マスコミや行政などから変えていくための取組をしていくことが必要。	南会津
		82	密な人間関係は悪いことばかりではない。地元の暮らしに馴染むためには、世話をやいてくれる地元の人たちが必要。	南会津
		83	移住・定住は、仕事を通じて地域と関わるケースが多いのではないか。ビジネスマッチングは切り口として良いと思う。	相双
		84	移住にはデメリットもある。移住に興味のある方には自分の体験を伝えている。都会的な生活を田舎に持ち込んでも無理。	相双
		85	移住や起業は本人の人生のためにあるものだと、実際に移住・起業して感じている。	相双
		86	最近は、UIJターンでけでなく、お気に入りの地域を回りながら暮らすOターンも増えている。従来からの定住対策だけでなく、関係人口を増やす対策が必要。	相双
		87	移住を判断する材料のひとつとして、若者向けの助成制度の有無もある。もう少し情報があると良い。	いわき
	②住まいの支援等	88	地方都市の中心地区は比較的便利。空き家と信頼あるリフォーム業者を紹介し、県産材を使用してもらってはどうか。夫婦で国民年金13万円で暮らせますよと提案し、無農薬の野菜を育てれば運動にもなる。	県北
		89	空き家バンクについて、適正価格の再評価が必要。お金のあるシニア層は良いが、20～30代では適正物件（不動産）を見つけられるかどうかが大きなポイントである。	会津
		90	空き家と耕作地を無償で貸し付ける滞在型の観光事業を行ってみてはどうか。	南会津
		91	行政は定住促進プランなどを策定し取り組んでいるが、移住者受入れの際、仕事や住まいの確保等への支援が十分でない。	南会津
		92	自分が移住する際に住まいに困った。その経験から、移住してくる若者へのシェアハウスを運営している。	相双
		93	空き家の貸し主は、知り合いには貸しても良いという方が多い。貸し主と借り主をつなぐ存在が必要。	相双
	③地域との交流	94	サポートを受けて移住してきても3年以内に出て行ってしまうケースがあると聞く。移住後のサポートも必要。	県南
		95	移住した地域では月１回の会合に移住者も混ぜてくれ、やりたいことなど意見を聞いてくれる。実際にやりたいことをやらせてくれ、教えてくれるシニアもいる。	会津

分野		No	意見等	地域
	（2）観光・交流・つながり	96	人口減少は止めようがない。交流人口の拡大で少しでも賑わいを取り戻したい。	県中
		97	過疎地域の活性化の鍵として関係人口も取り上げてほしい。	県中
		98	グリーン・ツーリズムの広域的な取りまとめは市町村では難しい。引き続き県にお願いしたい。	県中
		99	町内で採れる有機栽培の野菜を、民宿の料理の材料として提供することで「健康な民宿」として売り出すのもおもしろい。	南会津
		100	松川浦は素晴らしい潮干狩りのスポット。全国的にアサリが減っている中で、松川浦はアサリの密度が高い。	相双
		101	ここ数年、スポーツで人を呼ぼうと合宿や大会の誘致に取り組んでいる。	相双
		102	今後は、震災後の地域の姿を見せるツーリズムも観光資源になると思う。	相双
		103	ふるさとに帰れない、避難先で暮らしている、だけれども、地元に愛着がある人は一定数いる。関係人口をどのように増やしていくか、関係人口をどのように測るのか。福島県だからこそ国に提案していくべき。	相双
	（3）情報発信	104	情報発信のターゲットを鮮明にし、より福島に来てもらえるような仕組みづくりが必要。	県南
		105	地域資源とは、観光や物産以上に人。人をクローズアップしていくことが、地域のPRになる。	県南

分野	No	意見等	地域
4　結婚・出産・子育て支援			
（1）結婚	106	婚活パーティなどはあるが、出会いの機会が少ないと感じる。もう少し手厚い支援があると良い。	いわき
（2）出産	107	男性不妊は光が当たりにくい。県として光を当ててほしい。	県北
	108	企業ももっと出産、子育てに対して支援すべき。	会津
	109	出産にいたるまでの不妊外来や妊活へのサポートが必要。相談窓口がほしい。	相馬
（3）子育て ①保育所	110	女性の社会進出、多様化する業務体系などから、土日祝日の保育サービスの必要性が増している。一方で、保育園や保育士の不足、保育の質の低下などが問題となっており、保育現場は深刻な状況。	会津
	111	保育士の人材不足が深刻。理想と現実のギャップで勤まらない若者が多い。	会津
	112	共働き夫婦が増えており、24時間や休日でも利用できる保育施設が必要だと思う。	いわき
②学童保育	113	学童保育での支援員の負担軽減、人材不足を補うため、小学校高学年の児童が低学年の児童の面倒を見るといった循環型の仕組みを構築できないか。	いわき
③子ども食堂・居場所づくり	114	子ども食堂は、共働きで食事を作るのが大変な家庭の子どもも受け入れるよう会社、地域などが進めていくべき。	県南
	115	子ども食堂、子どもの居場所づくりなどは民間で出来る。積極的に民間を巻き込んでほしい。	会津
④その他	116	核家族化やストレス社会などにより、子育てできない（子育ての仕方が分からない）親が増えている。まず、親を育てる必要がある。	会津
	117	ある地域では、保育園から中学校まで給食無料化を進め、子育て負担軽減により、移住者が増えている。	会津
	118	放課後児童クラブの仕事をしていて感じるが、震災後に生まれた子ども達が落ち着きがない。震災後の保護者へのサポート不足が影響しているのではないかと思う。	相双
	119	子どもはすぐに成長する。県民がスピード感を感じられるような子育て支援の充実を期待する。	相双
	120	子育てに関わる大人が笑顔になると子どもが笑顔になる。それが地域の元気につながる。	相双

分野	No	意見等	地域
5　まちづくり・地域づくり			
（1）全般	121	移住者を求めるというのもあるが、むしろ、子どもたちに地元に残ってもらえるよう楽しい、魅力ある地域づくりが必要。	県中
	122	地域づくりは、地域資源をいかに活用するかがポイント。土地、建物だけでなく、使われていない資材や機械、今まで蓄積されてきたが継承されない技術など、活かすべきものは沢山ある。	県南
	123	地域の暮らし方がまさに魅力。そこを強みとした地域づくりを進めてほしい。	会津
	124	若者がチャレンジできる場を提供している町がある。地域で若者を育てる、地域で若者をサポートする環境づくりが大切だと感じる。	会津
	125	高知県では、県と市町村が半分ずつ予算を負担し、集落に活動費を預ける取組を行っている。自分たちで何に重点を置いて使うか決めることができる。	会津
	126	かつて建築の仕事をしていた。移住経験を通し、地域の土地や建物と人々とのつながりの大切さを感じている。	相双
	127	自分たちが住みたいまちを追求し、実現することが定住人口の増加につながるのではないか。	いわき
	128	誇りを持てるまちをつくる必要がある。福島県はどこを見ても同じ店、どこにでもある企業が多い。個性ある店や企業が必要。まちの個性を生み出すことが大切。	いわき
（2）交流拠点	129	核家族化が進んでおり、祖父母と同居する子どもが少ない。多世代交流拠点は高齢者、子ども達にとって良い施設。廃校などを活用し、整備できると良い。	県中
	130	地域の若い人の拠点づくりを行うもの良い。	南会津
（3）買い物環境、交通	131	地域で暮らしていくためには買い物環境が必要。近所の人と話をする場でもある。集落に商店のような機能ができないか。	県北
	132	中心商店街のシャッター街化は問題。	県中
	133	地域の元気には商店街が影響している。商店街を活性化させる施策が必要。	県南
	134	公共交通機関が便利な形で提供されていることが不可欠。生活の足が沢山あれば住みやすいまちに近づくのではないか。どの家庭でも高齢の方を抱える時代になる。公共交通機関の整備は重要。	いわき
	135	車がないと生活しにくい。カーシェアなどの制度があれば、都心から引っ越ししてくる方にとって有り難いのではないか。	いわき
	136	地域の人が無報酬でドライバーをするというシステムが出来た。良い面がある一方、足があることで地元商店の売り上げが落ちるなど、地元が苦しむ面もある。バランスよくやっていく必要がある。	いわき
（4）コーディネーター	137	まちづくり、仕事づくりにおいて、多様な人を調整する存在が必要。中間支援者やコーディネーターの育成・支援の仕組みがあると良い。	相双

分野		No	意見等	地域
	(5)その他	138	統廃合された学校の有効活用を考えていく必要がある。	県中
		139	空き家の家賃は高いが、チャレンジショップの商品単価は安い。家賃ギャップは課題のひとつ。	県中
		140	ユースプレイス事業をしているが、ニート、引きこもりは若者だけでなく高齢化してきている。この方たちへの支援体制が手薄であり、支援が必要。	県南
		141	高齢者が気持ちよく活躍できる場があると良い。例えば、高齢者による託児所運営など。そこに行政や団体等からの資金や制度面での支援があると良い。	いわき
		142	高齢の方々のノウハウ、この地域を選んで来てくれた多様な文化を持った方々の情報を活かす仕組みづくりが必要。	いわき
		143	まちづくりに様々な立場の人達が関わっているが、方向性がばらばら。一本化の必要性を感じている。	相双
		144	都会の生活は田舎が支えていると感じる。エネルギー供給だけでなく、食や、都会にはない安らぎがある。	相双
		145	復興公営住宅の自治組織が設立された。今後、どのように自治組織を存続させていくかが課題。	いわき

分野	No	意見等	地域
6　教育・人づくり			
（1）地域への愛着、誇りの醸成	146	子どもたちに地域の良さ（食べ物、環境など）に触れてほしい。	県中
	147	小学生から高校生まで、いろいろな体験をさせることが非常に大事。	県中
	148	小さな頃から地域の魅力や、地域で働くことの魅力を伝えることが大切。	県南
	149	地域の魅力は外ではなく、まずは地域の子どもたち、若者たちに伝えることが大切。小さい頃から地域を知ることが大事。	会津
	150	小中学生のインターンシップの受入を行っている。子ども達が幼い頃から地元企業を知る、学ぶことが重要。企業も地域に溶け込み、地域とともに成長する必要がある。	会津
	151	子ども達が小さい頃から、地元にある産業、仕事について知る機会が必要。	南会津
	152	子どもが意見を言い、それが実現されるまちであれば若者はまちを出ていかない。一度出ても戻ってくる。子どもたちを地域の中で育てていくことが大切。	いわき
（2）若者の定着・還流	153	県外出身の学生に県内で就職してもらうためには、福島で暮らすことの素晴らしさや仕事の楽しさを伝えていくことが大切。	県北
	154	進学のため県外に出た学生に戻ってきてもらうためには、高校在学中からの取組が必要。併せて保護者への情報発信も大切。	県北
	155	高校生に対し、県内大学の良さを周知すべき。また、産学官連携によるキャリア支援、復興支援の体験など、大学、行政、地域が連携して新たな価値を発信していくべき。	県北
	156	企業、高校、大学等が連携し、人材育成を進めることが重要。	会津
	157	奥会津地域では、高等教育機関（高校、大学等）がなく、若者の流出が深刻。学校がなければ、学びの場を作ればいいのではないかと、デンマークのフォルケホイスコーレの取組に注目している。	会津
	158	職業教育は早い段階から行うべき。意欲や目的意識を持った人は離職率が低い。	南会津
	159	県内で学んだ学生に福島に残ってもらうための取組が必要。	南会津
	160	県立高校の統合・再編により、地元高校の倍率が上がり、これまで入学できた地元の生徒が入学できなくなるのではと心配している。	南会津
	161	子ども達が地元に戻り、地域を担う人材となるための仕組みがあると良い。	相双

分野		No	意見等	地域
	(3)その他	162	地域にプレーヤーが少ない。人を育てていく必要がある。	県中
		163	子どもの農業体験は食育にも繋がる。	県中
		164	フリースクール(※)に通うことで学校の単位も取れ、将来の就職にもつながる。市町村と連携し、子どもと社会とのつながりを支援していきたい。 (※)フリースクール:一般に不登校の子どもに対し、学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行っている民間の施設。民間の自主性・主体性の下に設置・運営されている。	県中
		165	ふくしま創生総合戦略の「4つの挑戦」に、子ども達の教育の視点を入れてほしい。	南会津
		166	海外に目を向けると、英語が必要な場面が多々ある。英語教育の重要性を強く打ち出してほしい。	南会津
		167	地域の高校は普通課程のみであり、かつてあった専門課程がない。採用後、育成のための時間とコストがかかっている。	南会津